淀川区教育行政連絡会「小学校の部」議事要旨

日 時 平成 28 年 2 月 2 日 (火) 11:00~12:30

場 所 淀川区役所 5 階 504 会議室

出席者 学校長：新東三国 東三国 北中島 (遅刻) 宮原 西三国 三国 新高 西中島
木川 木川南 十三 野中 塚本 田川 加島
(欠席：三津屋、神津)

区役所：淀川区長 教育支援担当課長 教育支援担当課長代理 子育て支援担当課長
教育支援担当係長 係員

傍 聴：0 人

資料①-1 区長と教育長との面談記録

資料①-2 全国学力・学習状況調査にかかる対応について

資料② 運営の計画への記載例(1)

資料③-1 運営の計画への記載例(2)

資料③-2 ヨドネル 事業イメージ(案)

資料③-3 睡眠チェックシート(例)

資料③-4 区内 6 中学のスマホ・睡眠・生活習慣アンケート

資料③-5 新北野中学校のスマホアンケート

資料③-6 新聞報道(スマホルール化をめぐる動き)

【次第】

司会：教育支援担当課長

◎区長あいさつ

◎議題

《1 学力向上に向けた取組について》【公開】

《2 学校への関心を高めてもらうための取組について》【公開】

《3 睡眠習慣改善に向けた取組について》【公開】

- ・説明：区長、教育支援担当
- ・各議題について意見交換

《意見交換要旨》

議題1 学力向上に向けた取組について

(区より説明)

- ・ 学力・学習状況調査(以下、「学テ」)にかかる対策の実施について。教育委員会事務局としては、過去問を web 配信して対策を実施できるだけの教材は提供しているが、実施については、各校に任せるというスタンスであるとのこと。
- ・ 市教委の新施策で、学力カルテが作られることになる。学力の二極化が言われているなか、個別学習フォローの重要性が高まると思われる。放課後の補習実施にかかる支援は区としても行っている(小学生補習充実事業)。オンライン学習など、新しいものの取入れも検討されたい。
- ・ 各校の学テ対策実施状況について。

(意見交換)

○補習充実事業について、制度はありがたいが、実際に指導に入ってくれる人材の確保が困難。

⇒人材不足をカバーするという意味でも、オンライン学習などの取入れは検討価値がある。

○学力カルテでは、学力の背景にある家庭や個人の問題は共有されないので、これまで通り、小中連携を密にするなどは必要。

○学力カルテに基づき各人に見合う教育をめざすならなおさら、コントロールする側である教員の力量が問われてくる。

議題2 学校への関心を高めてもらうための取組について

(区より説明)

- ・ 学校協議会研修、区 PTA の会議等、いろんな会議で共通して出てくる意見が、学校協議会の傍聴の人数を増やしていくべきだということ。学校への関心を高めることは必要。
- ・ アプローチ方法は2つで、広く浅くという方法と、深く掘り下げる方法。前者には、学校 HP の閲覧数、後者には、学校協議会の傍聴数が指標になるだろう。
- ・ 各校で運営の計画にこの目標と取組を盛り込んでいくことはできないか。どんな取組をするのか、指標は何にするのかは、学校に任せるが、何かしら、関心を高める、ということに関する取組を見える化していただきたい。

(意見交換)

○運営の計画は学校協議会の承認を経ることが必要。学校協議会での意見を受けて修正することもある。

○PRにあたっては、直接の声かけも重要。

○ネットワーク環境がない方もいる。紙ベースの発信も重要。

○保護者の満足度アンケートで学校の発信状況を測定するなど、目標設定のバリエーションも考えられるが。

⇒各校で目標設定の方法はお任せするが、学校や学校協議会への関心を高めてもらう、という趣旨に沿っての取組とそれを測定する目標を何かしら盛り込んでほしい。

議題3 睡眠習慣改善に向けた取組について

(区より説明)

- ・平成28年度から子どもの睡眠改善支援事業を本格実施予定。学校が子どもへの直接指導を行い、その取組を運営の計画にて見える化する。区役所は、学校の取組の意思統一、保護者への啓発を行う他、専門機関への委託により、6月に大規模調査、11月にそのフィードバックを行う。
- ・運営の計画に、睡眠にかかる取組についての項目を盛り込んでほしい。年度目標としては、学テの質問項目を活用し、前年度よりも向上させることをめざしてほしい。
- ・取組としては、睡眠チェックシートの活用、スマホ制限にかかるルールづくりを提案する。

(意見交換)

○睡眠チェックの実施で子どもの意識付けが期待できる。スマホ制限を各校でルール化というのは、実際かなり難しい。

○睡眠チェックの実施時期は、区提案とずれていてもよいか。

⇒かまわない。

○保護者の意識を変えることが大事。すぐに効果は出ないと思うが、長い目で見れば学力にも結び付くと思う。

○小学生は、スマホよりゲームのほうが問題かもしれない。

○本校では、PTAにて睡眠の問題に取り組む委員会の立ち上げをめざしている。

○目標設定について、区提案の「前年度より向上させる」というものだと、以前から取組を実施している本校では、新しく取組を始めた学校よりも達成が困難。

⇒学テの質問項目を活用することをお願いし、数字の設定等は各校にて変えてもらってよい。

○運営の計画は学校協議会の承認を経ることが必要。学校協議会での意見を受けて修正することもある。

○測り方の例として、睡眠チェック票の保護者のコメント欄より、保護者の意識が変わったかどうかを測定するというのも良いのでは。

○子どもへの意識調査による効果測定も良いのでは。

⇒学テを用いた目標に加えて、各校で目標を追加することは構わない。

○家庭の問題で、子どもの睡眠に構う余裕がない家庭もある。家庭の問題では校長自ら対応しているが、区の子育て支援室はとても動きがよく助かっている。

○学校体育施設開放事業で行っているスポーツ指導の実施時間について、子どもの就寝時間を考えて、あまり遅くならないように区から指導できないか。

⇒検討する。

○本校では、給食・掃除のあとに15分の昼寝タイムを2月から試行実施する。効果があれば取組を広げたい。

⇒質問項目は統一、その質問結果の数字目標をどう設定するかは各学校で、という形で進めていっていただきたい。